

テレビを消して絵本を読もう

2004.08.04

7月8月と暑い日が続いて、ひどいとびひになって受診するこどもがふえています。虫さされのあとなど特に注意して悪くなる前に受診してくださいね。

この診療日誌を読んでいただいている大人の方、小さい時の絵本の思い出って心にきっと残っていると確信していますがどうですか？絵本は一見単純で大人がいま読むとつまらないと感じるようなものでも、こどもの心には印象深く思えたり、越えなければならぬこどもにとっての発達課題を絵本を通して教えてくれたりもします。

以前の日誌に言葉の遅れとテレビなどのメディアとの関係について書きました。今、親になってこどもを育てている方の多くは、生まれてものごころついたときには、すでにテレビは家庭の中にありました。テレビがついていることになんら違和感を覚えない方も多いかと思えます。テレビで語りかけは相手の表情や関心の持ち方に関わらず一方的に流れてきます。でも、絵本の読み聞かせをつうじての語りかけは、こどもの表情や関心を間近で見ながら、「もっとここ読んで！」のこどものリクエストにもすぐに応じることができます。こどもの興味に打たれて響く対応をすること。こどもの知的な好奇心を育てるこれ以上のものはありません。

絵本を通して楽しい親子の会話を増やして欲しいとの願いを込めて、全国ではブックスタートといって、公的な健診を受けた機会に絵本をプレゼントするという事業が始まりつつあります。恵庭市が全国にさきがけではじめました。道南では上ノ国町と八雲町が現在実施しています。

当院でも7月から、1歳になってすぐにはしかのワクチンを受けてお子さんに読んで見ても楽しい絵本をプレゼントすることにしました。選んだ絵本はブックスタートのホームページの中で推奨されているものです。お母さんに抱かれて、楽しそうに絵本を選んでいる姿を見ると、こちらのほうもうれしくなります。皆さんも是非、テレビを消して絵本での親子の語り合いをして見ませんか？0歳でも楽しいですよ。